

株主通信

第116期 第2四半期決算のご報告

平成21年4月1日～平成21年9月30日



# DNP Report Vol.60



表紙：宇宙日本食「わかめスープ」。  
P9-10に詳細記事を掲載しています。  
協力：理研ビタミン株式会社

## 目次

株主の皆様へ	1
クローズアップ	2
第116期 第2四半期決算のご報告	3
事業ハイライト	8
トピックス	11
株式情報	12
会社情報	13

当株主通信は、DNPの事業ビジョンや業績に関する情報の提供を目的としています。記載された意見及び予測は、作成時点でのDNPの判断に基づいたもので、これらの情報の完全性を保証するものではありません。

株主の皆様には、ますますご清栄のことと心よりお慶び申し上げます。また日頃は格別のご支援を賜り誠にありがとうございます。

ここに、第2四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年9月30日まで）のDNPグループの営業概況につきまして、ご報告申し上げます。

当期のわが国経済は、米国の金融危機に端を発した世界的な景気後退の影響を受け、企業収益、設備投資、雇用情勢の停滞が続くなど、依然として厳しい状況にありました。

印刷業界においても、需要の低迷に加え、競争激化による受注単価の下落により、経営環境は一層厳しさを増しました。

このような状況のなか、DNPグループは、事業ビジョンである「P&Iソリューション」に基づき、積極的な営業活動を展開して、顧客ニーズに対応した製品、サービス及びソリューションを提供するとともに、品質、コスト、納期など、あらゆる面で強い体質を持った生産体制の確立を目指す「モノづくり21活動」にグループを挙げて取り組み、業績の確保に努めました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の連結売上高は7,712億円（前年同期比4.1%減）、連結営業利益は256億円（前年同期比35.9%減）、連結経常利益は249億円（前年同期比40.0%減）、連結四半期純利益は79億円（前年同期比52.2%減）となりました。



代表取締役社長 北島義俊

通期の連結業績予想につきましては、出版市場、広告市場をはじめとして、景気、需要の先行きが極めて見通しの立てにくい状況であることから、第2四半期連結累計期間の業績を踏まえて見直し、売上高は減額し、利益については通期の予想を据え置きました。

なお、当期の中間配当金は、11月13日開催の取締役会において、1株につき16円とさせていただきます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご指導とお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。

## ◆ 「ルーヴル - DNP ミュージアムラボ」 第6回展

LOUVRE - DNP  
MUSEUM LAB「1800年前、エジプトに生きた女性たちの肖像」を開催  
(2009年7月18日 [土] ~ 2009年12月19日 [土] DNP五反田ビル)

女性の肖像 通称〈ヨーロッパの女性〉  
紀元2世紀前半 ヒマヤスギ、蠟画、一部に金箔  
パリ、ルーヴル美術館  
© 2008 Musée du Louvre / Georges Poncet

## 鑑賞のポイント

今回展示する作品は、「ファイユームの肖像画」と呼ばれ、紀元2世紀ローマ帝国占領下の古代エジプトで板に描かれた肖像画です。古代エジプトの埋葬習慣、古代ギリシアの蠟画技法、古代ローマの伝統的な写実表現を特徴とするこれらの作品によって、当時のエジプトにおける3つの古代文明の混交の様子をうかがい知ることができます。

- 観賞無料・予約制
- ウェブサイトからご予約いただけます。  
<http://www.museumlab.jp>

ルーヴル - DNP ミュージアムラボは、ルーヴル美術館とDNPによる美術作品の新しい鑑賞方法を提案する共同プロジェクトです。独自に開発した鑑賞システムを活用して、美術館の来館者と美術作品とをつなぐ新しいアプローチとして好評を得ています。

第6回展となる今回は、これまで3年間の第1期プロジェクトの締めくくりとして、紀元2世紀にローマ占領下のエジプトで描かれた女性の肖像画3点を取り上げます。

DNPは、2006年から6回の展示会を開催してきましたがルーヴル美術館と第2期プロジェクト契約を締結し、2010年秋に第7回展を開催する予定です。第2期では、第1期の開発成果をルーヴル美術館のパリ本館に導入することが計画されているほか、同館に関連する他のプロジェクトへの展開にも取り組んでいく予定です。今後、ミュージアムラボの成果を他の美術館・博物館へ展開することも視野に入れ、映像やITを活用した新しい美術鑑賞の手法を提案していきます。



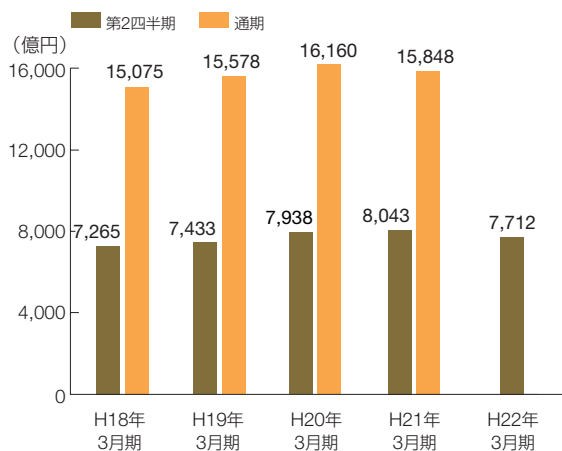
DNP五反田ビル1階ホワイエ



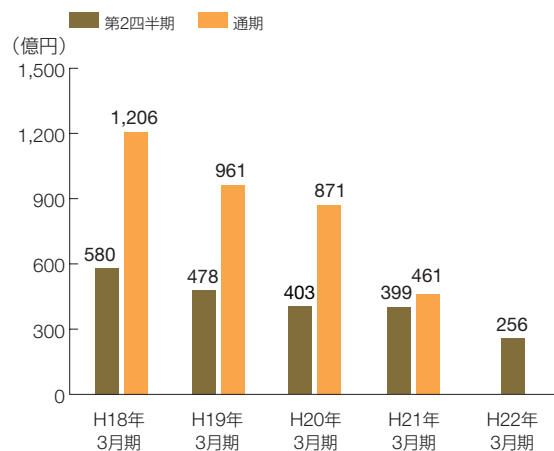
さまざまな操作で絵画の背景や秘密に迫ります

● データハイライト

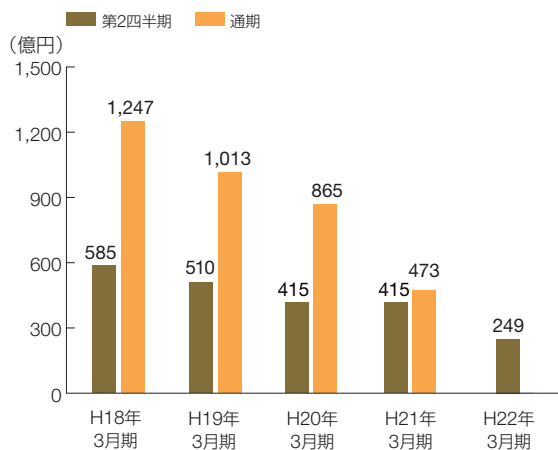
連結売上高



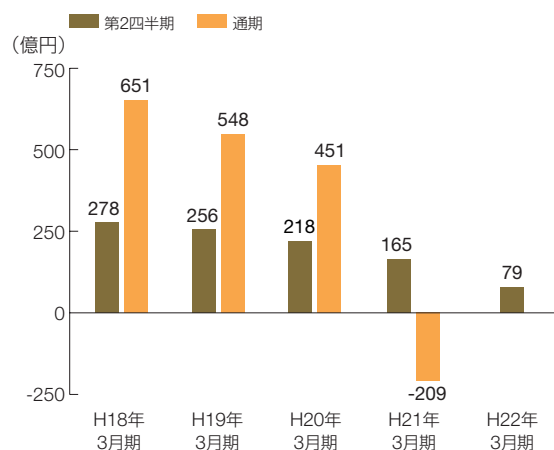
連結営業利益



連結経常利益



連結当期純利益



## ● 部門別営業報告

## ■ 印刷事業

## 情報コミュニケーション部門



パーソナルメール

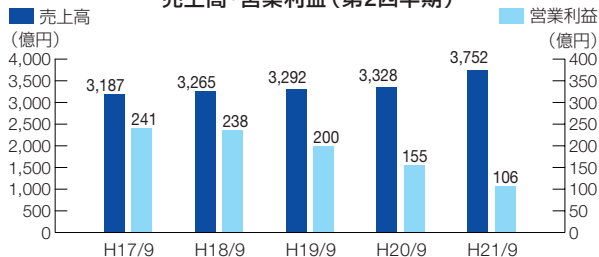


ICカード

売上高 3,752億円 (前年同期比12.7%増)

営業利益 106億円 (前年同期比31.9%減)

## 売上高・営業利益 (第2四半期)



出版印刷関連は、長引く出版市場の低迷により、書籍、雑誌とも減少しました。また、求人情報や住宅情報関連のフリーペーパーも低調でした。

商業印刷関連は、企業業績悪化の影響を受け、チラシ、パンフレット、POPなどの広告宣伝物が減少し、前年を下回りました。

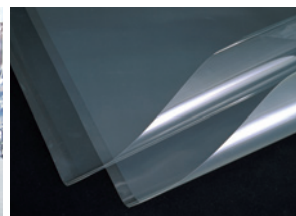
ビジネスフォーム関連は、パーソナルメールなどのデータ入力から印刷・発送までの業務を行うIPSや、ICカードが増加したものの、コンピュータ用連続帳票が減少し、前年を下回りました。

なお、M&Aなどによって拡大した教育・出版流通事業が、当部門の売上増加に寄与しました。

## 生活・産業部門



ペットボトル用無菌充填システム

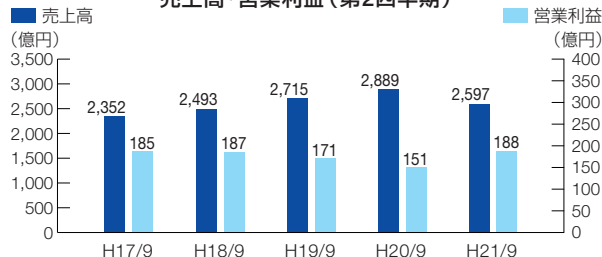


薄型ディスプレイ用反射防止フィルム

売上高 2,597億円 (前年同期比10.1%減)

営業利益 188億円 (前年同期比24.2%増)

## 売上高・営業利益 (第2四半期)

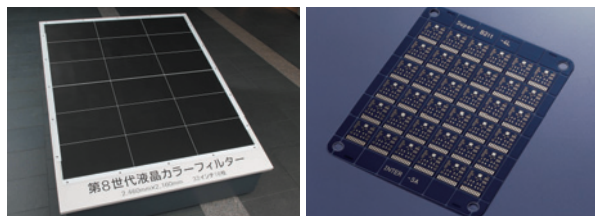


包装関連は、軟包装材、紙器が減少したほか、ペットボトル用無菌充填システムの販売も減少し、前年を下回りました。

住空間マテリアル関連は、DNP独自のEB (Electron Beam) コーティング技術を活かした環境配慮製品などの拡販に努めましたが、長引く住宅需要低迷の影響により全体に低調でした。

産業資材関連は、薄型ディスプレイ向け反射防止フィルムは増加しましたが、フォトプリンター用のインクリボンや受像紙、太陽電池用バックシートなどが減少し、前年を下回りました。

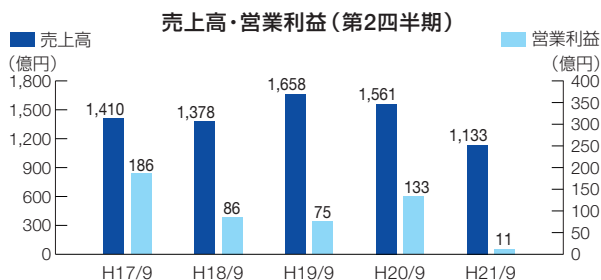
## エレクトロニクス部門



液晶ディスプレイ用カラーフィルター 高密度ビルドアップ配線板

売上高 1,133億円（前年同期比27.4%減）

営業利益 11億円（前年同期比91.3%減）



液晶カラーフィルターは、液晶パネルの需要回復により受注数量は増加したものの、価格面では依然厳しい状況にあり、前年を下回りました。

半導体関連については市場の低迷が続き、フォトマスクが減少したほか、ハードディスク用サスペンションなどのエッチング製品、高密度ビルドアップ配線板も減少しました。

## 清涼飲料事業

## 清涼飲料部門



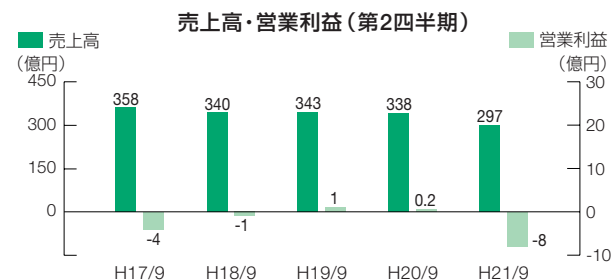
北海道コカ・コーラボトリング株式会社



天然水 い・ろ・は・す

売上高 297億円（前年同期比 12.2%減）

営業損失 8億円（前年同期は29百万円の営業利益）



個人消費が低調に推移し、販売競争がさらに激化する厳しい市場環境のなかで、主力商品である「コカ・コーラ ゼロ」の販促キャンペーンを展開したほか、国内最軽量ボトル「ecoるボトル しぼる」を採用した新ウォーターブランド「い・ろ・は・す」を発売するなど、販売の拡大に努めました。その結果、炭酸飲料は増加しましたが、ティー飲料、コーヒー飲料が減少しました。

## ● 連結財務諸表

## 連結貸借対照表

(平成21年9月30日現在)

(単位：百万円)

科目	当第2四半期 連結会計期間末	前連結会計 年度末
<b>&lt;資産の部&gt;</b>		
<b>流動資産</b>	<b>691,604</b>	<b>676,149</b>
現金及び預金	140,691	123,569
受取手形及び売掛金	413,847	405,876
商品及び製品	68,137	73,372
仕掛品	32,042	29,707
原材料及び貯蔵品	18,182	17,566
繰延税金資産	10,688	10,278
その他	13,371	21,057
貸倒引当金	△ 5,357	△ 5,280
<b>固定資産</b>	<b>871,523</b>	<b>859,672</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>617,715</b>	<b>604,904</b>
建物及び構築物(純額)	211,765	199,265
機械装置及び運搬具(純額)	175,329	183,890
土地	133,029	132,888
建設仮勘定	57,515	57,756
その他(純額)	40,075	31,103
<b>無形固定資産</b>	<b>46,455</b>	<b>48,850</b>
のれん	22,906	24,099
ソフトウエア	19,161	20,053
その他	4,387	4,696
<b>投資その他の資産</b>	<b>207,352</b>	<b>205,917</b>
投資有価証券	132,151	113,448
長期貸付金	1,626	3,015
繰延税金資産	42,941	50,015
その他	44,788	51,923
貸倒引当金	△ 14,154	△ 12,484
<b>繰延資産</b>	<b>1,790</b>	<b>735</b>
開業費	1,790	735
<b>資産合計</b>	<b>1,564,918</b>	<b>1,536,556</b>

(単位：百万円)

科目	当第2四半期 連結会計期間末	前連結会計 年度末
<b>&lt;負債の部&gt;</b>		
<b>流動負債</b>	<b>430,796</b>	<b>469,799</b>
支払手形及び買掛金	286,281	290,871
短期借入金	36,135	59,875
1年内返済予定の長期借入金	3,139	2,898
未払法人税等	10,240	7,891
賞与引当金	16,213	16,186
その他	78,787	92,075
<b>固定負債</b>	<b>184,050</b>	<b>126,671</b>
社債	101,000	51,000
長期借入金	9,069	10,490
退職給付引当金	42,077	41,451
その他	31,903	23,729
<b>負債合計</b>	<b>614,847</b>	<b>596,471</b>
<b>&lt;純資産の部&gt;</b>		
<b>株主資本</b>	<b>916,327</b>	<b>917,348</b>
資本金	114,464	114,464
資本剰余金	144,898	144,898
利益剰余金	750,872	751,869
自己株式	△ 93,908	△ 93,884
<b>評価・換算差額等</b>	<b>△ 5,791</b>	<b>△ 19,173</b>
その他有価証券評価差額金	6,097	△ 3,882
繰延ヘッジ損益	16	△ 4
為替換算調整勘定	△ 11,905	△ 15,285
<b>少数株主持分</b>	<b>39,535</b>	<b>41,910</b>
<b>純資産合計</b>	<b>950,071</b>	<b>940,085</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>1,564,918</b>	<b>1,536,556</b>



## 連結損益計算書

(平成21年4月1日から平成21年9月30日まで)

(単位：百万円)

科目	当第2四半期 連結累計期間	前第2四半期 連結累計期間
<b>売上高</b>	<b>771,276</b>	<b>804,322</b>
売上原価	629,830	660,625
<b>売上総利益</b>	<b>141,446</b>	<b>143,697</b>
販売費及び一般管理費	115,836	103,748
<b>営業利益</b>	<b>25,610</b>	<b>39,948</b>
営業外収益	5,185	6,334
受取利息	395	748
受取配当金	1,884	2,044
その他	2,906	3,542
営業外費用	5,863	4,713
支払利息	1,057	759
持分法による投資損失	210	1,129
貸倒引当金繰入額	1,509	—
その他	3,084	2,824
<b>経常利益</b>	<b>24,932</b>	<b>41,569</b>
特別利益	347	561
固定資産売却益	119	77
投資有価証券売却益	16	363
その他	211	121
特別損失	4,636	8,351
固定資産除売却損	2,782	2,872
投資有価証券評価損	944	3,099
その他	909	2,380
<b>税金等調整前四半期純利益</b>	<b>20,644</b>	<b>33,779</b>
法人税、住民税及び事業税	10,107	16,074
法人税等調整額	2,490	605
少数株主利益	121	532
<b>四半期純利益</b>	<b>7,924</b>	<b>16,567</b>

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(平成21年4月1日から平成21年9月30日まで)

(単位：百万円)

項目	当第2四半期 連結累計期間	前第2四半期 連結累計期間
営業活動による キャッシュ・フロー	64,065	72,582
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 58,671	△ 55,117
財務活動による キャッシュ・フロー	13,001	△ 33,812
現金及び現金同等物に 係る換算差額	1,699	△ 1,576
現金及び現金同等物の 増減額 (△は減少)	20,095	△ 17,924
現金及び現金同等物の 期首残高	117,200	130,695
新規連結に伴う現金及び 現金同等物の増加額	97	—
現金及び現金同等物の 四半期末残高	137,393	112,770

## 連結業績の予想 (平成22年3月期通期)

(単位：億円)

売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
16,000	400	400	200

(参考) 1株当たり予想当期純利益(通期) 31円04銭(予想年間期中平均株式数による)

## 新たな価値を生む包装（パッケージ）事業

DNPは、これまで培ってきた印刷技術を活用し、新たな価値のある製品を生み出しています。包装事業分野では、「人にやさしく（Universal Design）、製品にやさしく（Symphony of Function）、環境にやさしく（Ecology）」をめざす“USE-FULL®”のコンセプトのもと、ユニバーサルデザインと環境に配慮した使いやすいパッケージを開発し、提供しています。

### ■環境に配慮し生活者視点に立ったパッケージ作り

古田 晴子（包装事業部企画本部ユニバーサルデザイン開発室）



“USE-FULL®”のコンセプトを掲げる包装事業に対して、近年、環境対応のニーズが増えており、私たちは「環境対応5原則※1」に基づいて、最適なパッケージを開発し提供しています。特に、LCA（ライフサイクルアセスメント）の観点から、カーボンフットプリントのように、CO<sub>2</sub>がどこでどれだけ排出されたかを「見える化」し、いかにCO<sub>2</sub>を削減していくかが重要となります。DNPのパッケージは、減量化・減容化

（リデュース）、再利用（リユース）に対応するとともに、原材料も植物由来などの再生可能資源（リサイクル）にすることで、商品のライフサイクル全般で環境負荷の低減に取り組んでいます。

DNPが開発した先端的な製品として、透明で高いバリア性を持ったIB（Innovative Barrier）フィルムがあります。IBフィルムは、水蒸気や酸素を透過させにくく、透明で中身が確認しやすいため、アルミ箔の代替品として用途が広がっています。軽量化することで環境負荷を低減し、食品用や医療品用、産業資材用など幅広い分野に展開していきます。

また、ユニバーサルデザイン（UD）の考えを取り入れたパッケージのさらなる質的向上のため、評価機能の充実に取り組んでいます。生活者視点に立ち、多面的な対応を図るた



IBフィルムパッケージ

め「UDクリニック」というコンサルティングシステムを運用しています。そして、パッケージの使いやすさを評価する施設として「PUL（パル：Packaging Usability Laboratory）」を開設し、また、生活者の商品認知、選択・購買、使用の際の心理・行動などを調査し、生活者の価値観に最も合ったブランド戦略やパッケージデザインを提案できる「ヒューマンリサーチラボ」を開設しています。これらを連携させ、商品の訴求力、使い勝手などを総合的に評価することで、より生活者の立場に近づいたパッケージを開発することが可能となりました。

※1：包装事業における環境対応5原則

- 1.リデュース（減量化・減容化の促進）
- 2.リユース（再利用・詰替えの促進）
- 3.リサイクル（再資源化の促進）
- 4.サステナビリティ（再生可能資源の活用）
- 5.環境負荷の低減（LCA手法の活用）



ヒューマンリサーチラボの実験風景



UDIに配慮したパッケージ

## ■ DNP独自の高い技術力による新製品開発

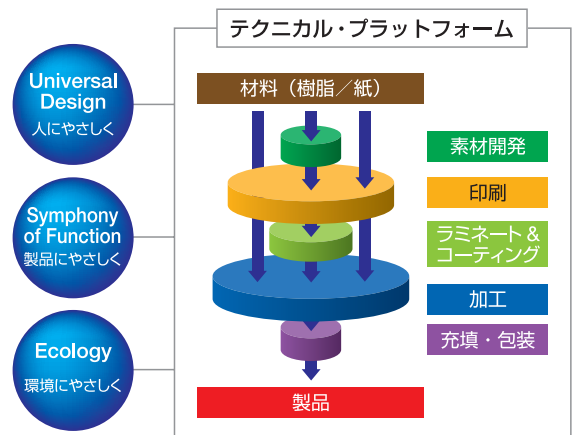
戸田 清志（包装事業部開発本部製品開発部）

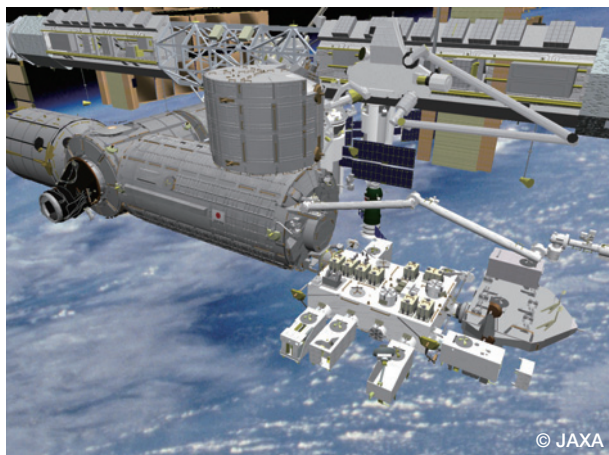
包装事業は、印刷で培った5つのコア技術で支えられています。それは、印刷技術を軸に発展したラミネート技術とコーティング技術、IBフィルムや多層フィルムなどの素材を開発する材料技術、パウチや成型



などの加工技術、無菌充填システムに代表される充填・包装技術です。私たちは、この5つのコア技術を応用して顧客企業の課題を解決する数多くの製品を提供しています。

このDNPの技術力が高く評価され、「宇宙日本食」のパッケージ開発につながりました。2010年完成予定の国際宇宙ステーション<sup>※2</sup>に接続する日本の実験





© JAXA

日本実験棟「きぼう」イメージCG

棟「きぼう」で任務に就く日本人宇宙飛行士の健康面を支えるため、独立行政法人宇宙航空開発機構（JAXA）が中心となり、2001年から宇宙日本食の開発を進めてきました。大手食品メーカーを中心とした開発の中で、宇宙食の基準をクリアするためのパッケージの役割が非常に重要となりました。そこで、DNPの高い包装技術と製品開発能力が評価され食品メーカーの強い推薦をいただき、宇宙日本食のパッケージ開発に参加しました。

今回DNPが開発した宇宙日本食用包装材の特長の一つは、従来のNASAやロシアで使用されているものと異なり、透明であるということ。よりおいしく食事を味わってもらうため、包装材を透明にすることにこだわりました。IBフィルムの使用によって、透明性



宇宙日本食「わかめスープ」

と食品の高い保存性を確保することができました。

これは、多くの分野の専門家がいるDNPだからこそ、開発できた製品です。バリア性の高い材料、シリコンゴムの設計、レトルト資材や成型品など、各専門ジャンルの開発担当者の知見を結集することにより、NASAの基準をクリアする包装材を提供することができました。保存性に優れ、栄養価の高い宇宙日本食は、震災時の非常食や介護食への応用も期待されており、DNPは今後もさまざまなニーズに対応していきます。

※2国際宇宙ステーション (ISS=International Space Station) :

地上約400キロメートル上空に建設が進められている巨大な有人施設。米国・ロシア・欧州・カナダなど世界15ヶ国が参加する国際協力プロジェクト。

#### ◆「第33回 木下賞 新規創出部門」を受賞



「レトルト用透明スタンディングパウチ」

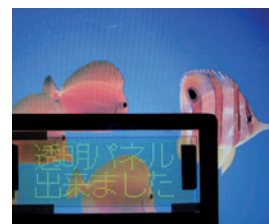
力を入れず、まっすぐに開封できる「外箱」

電子レンジで調理しやすい設計と、見やすく理解しやすいデザイン

今回受賞した電子レンジ専用パッケージは、家庭普及率が95%を超えた電子レンジでの“調理”の機能を付加した製品です。内容物の保護、商品情報の表示、輸送効率の向上など、パッケージ本来の機能はもちろん、ユニバーサルデザインに基づくデザインや使い勝手、調理機能などが高く評価され、今回、ハウス食品株式会社と共同の受賞となりました。

### ◆印刷方式による有機ELパネルを開発【7月23日発表】

DNPは、インキ状にしやすい高分子系有機ELと、高精度なグラフィック印刷技術を活用し、大型で低価格な有機ELパネルの開発に成功しました。この有機ELパネルは、公共の場に設置する場合など、必要に応じて表示する文字や絵柄をネットワークを通じてスピーディに更新することができます。また、プラスチック基材の採用により、軽くて薄いフレキシブルなディスプレイになるため、ポスターやPOP、販売台など、幅広い用途に展開できます。



高分子塗布型有機ELパネル

### ◆有機EL、無機EL、パネルスピーカーを搭載した“光る・しゃべるポスター”を開発【9月4日発表】

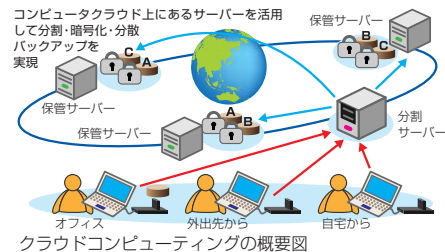
DNPは、文字情報を表示する有機ELパネルと、絵柄をアニメーション表示する無機ELパネルをポスターと一体化させ、さらにパネルスピーカーを搭載してポスター全体から音声を出す機能を付加した“光る・しゃべるポスター”を開発しました。株式会社ベガルタ仙台の協力のもと、このポスターの実証実験を行い、今後の機能開発や販売強化につなげていきます。



絵柄のアニメーション表示（イメージ）

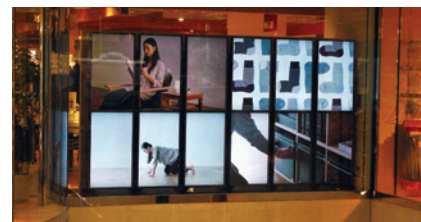
### ◆クラウドコンピューティングを利用し、重要情報を低コストで安全に保管するシステムの提供を開始【9月14日発表】

近年、インターネットを介して必要なアプリケーションやサーバ資源を提供するクラウドコンピューティングサービスに注目が集まっています。DNPと株式会社デジタル・メディア総合研究所、SCMマイクロシステムズ・ジャパン株式会社は、このサービスを利用してクラウド上の複数のサーバに、重要なデータを分割・暗号化して分散保管するシステムの提供を開始します。低コストで、重要情報の保管に関するリスクの低減を実現します。



### ◆デジタルサイネージシステム「トールビジョン」が東京・池袋の良品計画に常設【9月17日発表】

DNPのデジタルサイネージ（電子看板）システム「トールビジョン」が、株式会社良品計画に採用されました。トールビジョンは複数の大型ディスプレイをつなぎ、あたかも1つのディスプレイのようにデジタル映像を表示するシステムです。無印良品・池袋西武の1階ショーウィンドウとエスカレーター脇にトールビジョンを設置し、曜日や時間帯によってコンテンツを切り替えることで、客層に合わせた情報を配信しています。



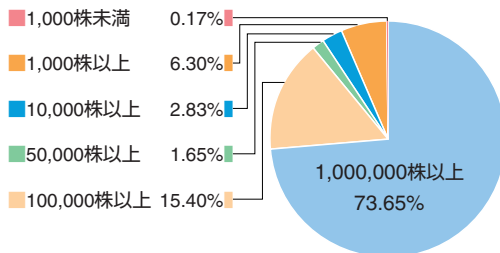
デジタルサイネージ「トールビジョン」

## ■ 株式の状況

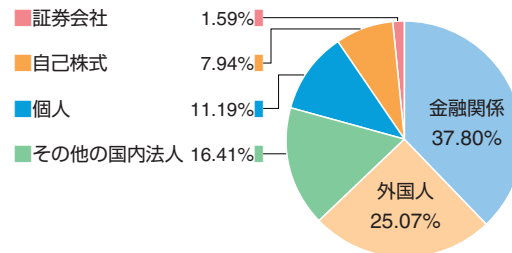
発行済株式総数  
700,480,693株

株主数  
30,673人

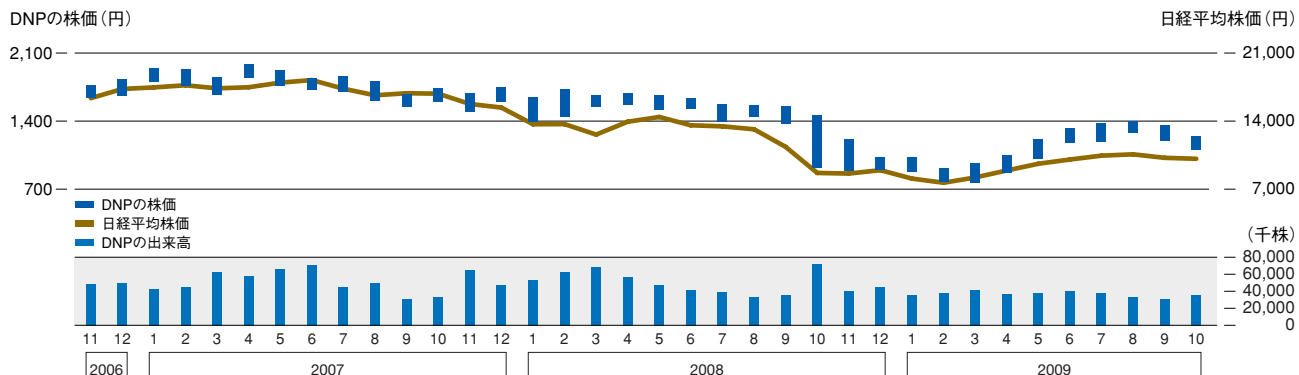
## 所有数別分布状況



## 所有者別分布状況



## ■ 株価/出来高推移



## ■ 主要大株主 (平成21年9月30日現在)

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	38,655	5.52
第一生命保険相互会社	30,882	4.41
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	29,597	4.23
ザバンク オブ ニューヨーク メロン アズ デポジタリ バンク フォー デポジタリ レシート ホルダーズ	21,283	3.04
株式会社みずほコーポレート銀行	15,242	2.18

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
日本生命保険相互会社	14,349	2.05
株式会社みずほ銀行	12,471	1.78
自社従業員持株会	11,031	1.57
ステートストリートバンク アンド トラスト カンパニー 505225	8,070	1.15
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	7,615	1.09

(注) 上記以外に、当社は自己株式55,624(千株)を保有しております。なお、当該株式数には、株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が1,000株含まれております。

## ■ 会社概要

### 商号

大日本印刷株式会社

### 英文社名

Dai Nippon Printing Co., Ltd.

### 本社所在地

東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号  
 電話 03 (3266) 2111 ダイヤルイン案内台  
 URL <http://www.dnp.co.jp/>

### 創業

明治9年(1876年)10月

### 設立年月日

明治27年(1894年)1月19日

### 資本金

1,144億6,476万円

## ■ 取締役及び監査役

代表取締役社長	北島 義 俊	専務取締役	黒田雄次郎	常務取締役	永野義昭	取 締 役	塚田忠夫 <sup>※1</sup>
代表取締役副社長	髙波 光 一	専務取締役	和田正彦	常務取締役	北島元治	常勤監査役	中村憲昭
代表取締役副社長	猿 渡 智	常務取締役	広木一正	常務取締役	清水孝夫	常勤監査役	米田 稔
代表取締役副社長	山田雅義	常務取締役	森野鉄治	取 締 役	小槇達男	常勤監査役	湯澤 清 <sup>※2</sup>
代表取締役副社長	北島義斉	常務取締役	戸井田孝	取 締 役	横溝 彰	監 査 役	根來泰周 <sup>※2</sup>
専務取締役	波木井光彦	常務取締役	柏原 茂	取 締 役	野坂良樹	監 査 役	野村晋右 <sup>※2</sup>
専務取締役	土田 修	常務取締役	秋重 邦和	取 締 役	塚田正樹		
専務取締役	吉野晃臣	常務取締役	野口賢治	取 締 役	墓田 栄		

※1. 取締役 塚田忠夫は、「社外取締役」です。  
 ※2. 常勤監査役 湯澤清、監査役 根來泰周  
 及び野村晋右は、「社外監査役」です。

## ■ 常務役員

西村達也  
 北湯口達郎  
 橋本耕一

## ■ 役員

小栗 明 齋藤 隆 西田吉男 神田徳次 峯村隆二 竹田泰夫  
 赤田正典 古谷滋海 土屋純一 山川洋二 小池正人 船津順一  
 山崎富士雄 不動田勝久 中村研介 和田 隆 山口正登 村本守弘

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会開催時期	6月
上記総会における議決権の基準日	3月31日 その他必要のある場合は、取締役会の決議によりあらかじめ公告して設定します。
剰余金の配当基準日	期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
上場証券取引所	東京・大阪
公告方法	電子公告により行います。(当社のホームページ <a href="http://www.dnp.co.jp/jis/ir">http://www.dnp.co.jp/jis/ir</a> ) ただし、事故その他やむを得ない理由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

### 【株式に関するお問合せ先・手続き窓口】

株券電子化に伴い、お問合せ先およびご住所変更等のお手続き窓口は、次の通りとなります。

1. 一般口座（証券会社の口座）にある株式 株主様が口座を開設されている証券会社の本支店

2. 特別口座にある株式

（お問合せ） みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
（フリーダイヤル）0120-288-324

（お手続き） みずほ信託銀行株式会社 本店および全国各支店、  
みずほインバスターズ証券株式会社 本店および全国各支店

\* 「特別口座」とは、株券電子化までに、「ほふり」（証券保管振替機構）をご利用されなかった株主様につきまして、当社が、みずほ信託銀行に株主名簿上の株主名義で開設した口座になります。

### ※ 単元未満株式に関するお知らせ

1,000株に満たない株式（単元未満株式）をご所有の株主様が、当社に対しその単元未満株式の数と合わせて1単元になる数の株式を買増請求できる「単元未満株式の買増制度」を導入しております。また、単元未満株式の買取請求につきまして、お取り扱いしております。

### ※ 「支払通知書」に関するお知らせ

「配当金領収書」で配当金を受取られる株主様宛に、確定申告に必要な、「支払通知書」をお送りすることとなりました（平成22年1月送付予定）。なお、口座振込をご指定の株主様については、同封の「配当金計算書」が「支払通知書」を兼ねておりますので、確定申告の添付資料としてご使用ください。

### ● 作成部署およびお問い合わせ先

**大日本印刷株式会社** 広報室 〒162-8001 東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号  
TEL:03-3266-2111（ダイヤルイン案内台）



グリーン電力を導入しました（年間100万kWh）。この報告書を印刷する際の電力（339kWh）は、自然エネルギーでまかなわれています。